

丹波市からの恐竜化石の発見

恐竜の化石は国内ではすでに 20 数か所から発見されています。県内では 2004 年に岸本眞五さん（姫路市在住）により洲本市で発見されたハドロサウルス科の恐竜の化石が最初です。この化石は国内産恐竜化石の中では保存の良い部類に属し、見事な下顎の骨のほか頸椎^{けいつい}などの骨がいくつか採集されました。この化石を産出した地層は、和泉層群（約 8 千万～7 千万年前）という海で堆積した地層で、この恐竜化石は陸から流れ着いた死体が化石化したものです。県内でほかに恐竜の化石



写真1. 試掘する発見者のお二人
（足立瀧さん:左;村上茂さん:右）

を産出する可能性がある地層としては、篠山市と丹波市に分布する陸上で堆積した篠山層群（約 1 億 4 千万～1 億 1 千万年前）がありましたが、洲本市で発見されたような見事な恐竜化石が発見されることは当分ないだろうと当時は思っていました。

それから 2 年経った 2006 年 8 月 9 日に、骨らしい化石の鑑定を希望されている 2 名のお客さんが来館されました。持参していただいたものを観察した瞬間思わず驚きの声を上げてしまいました。見つかるとしてもずっと先であろうと思っていたものが突然目の前に現れたからです。それは断面に骨特有のスポンジ状の組織を露出させている巨大な肋骨であり、直感的にそれが恐竜であることはすぐ



写真2. 試掘の様子(2006年9月27日)

に判りました。この驚くべきものを発見されたお二人、丹波市在住の村上茂さんと足立^{きよし}瀧さん（写真1）は 2006 年 8 月 7 日に丹波市山南町上滝の篠山川河床に露出する篠山層群からこの化石を発見、独力で肋骨と尾椎を掘り出し、9 日に発見現場から直接館に来られたのです。村上さんと足立さんは大学時代の同級生で、定年後、足立さんの提案で、丹波・篠山周辺の地層の観察をひとつの趣味として始めた中での大発見でした。

2006 年 9 月 27 日～29 日に削岩機を用いて試掘を行い(写真2)、十数点の恐竜化石を採取しました。村上さんと足立さんによって採集された尾椎には竜脚類の特徴が見られることが分かっていましたが、試掘によりさらに保存良好な竜脚類の尾椎（写真3）と血道弓が獣脚類の歯のかけらと一緒に産出し、竜脚類一頭に由来する骨がある程度まとまって埋まっている可能性が出てきました。しかし、化石を含む地層は河床に露出しており、侵食・盗掘による損失を防ぐためには早期に発掘を行う必要がありました。幸い、2007 年 1 月に発掘工事は着工されました。現時点ではまだ発掘途中ですが、続々と骨が地層中から姿を現しています。次号のハーモニーでは、この発掘の結果をお知らせできると思います。



写真3. 試掘で得られた尾椎
（A.背側面 B.外側面）